

使用上の注意改訂のお知らせ

鎮咳去痰剤

セキコデ配合シロップ

ジヒドロコデインリン酸塩・エフェドリン塩酸塩・塩化アンモニウムシロップ

※旧製品名：セキコデシロップ

販売元 日医工株式会社
富山市総曲輪 1 丁目 6 番 2 1
製造販売元 大日本住友製薬株式会社
大阪市中央区道修町 2-6-8

この度上記製品につきまして「使用上の注意」の一部を改訂（下線部分）いたしましたので、お知らせ申し上げます。

なお、改訂添付文書を封入した製品がお手元に届くまでには若干の日数が必要ですので、今後のご使用に際しましては下記内容をご高覧くださいますようお願い申し上げます。

<改訂内容>（ 部：事務連絡， 部：削除）

改訂後	現行
6. 妊婦・産婦・授乳婦等への投与 (1)～(3)：現行どおり (4)授乳中の婦人には、本剤投与中は授乳を避けさせること。〔 <u>ジヒドロコデインの類似化合物（コデイン）で、母乳への移行により、乳児でモルヒネ中毒が生じたとの報告がある。</u> 〕	6. 妊婦・産婦・授乳婦等への投与 (1)～(3)：略 (4)授乳中の婦人には、本剤投与中は授乳を避けさせることが望ましい。〔 <u>ヒト母乳中に移行することがある。</u> 〕

* 改訂内容につきましては、DSU No. 185（2009年12月発行）に掲載の予定です。

<改訂理由>

ジヒドロコデインリン酸塩の類似化合物であるコデイン服用中の授乳婦で、母乳への移行により乳児にモルヒネ中毒が生じたとの文献報告に基づき、ジヒドロコデインリン酸塩含有製剤（弊社製品：セキコデ配合シロップ）の「妊婦・産婦・授乳婦等への投与」の項に注意喚起の記載を追記いたしました。

<参考文献>

- 1) Lancet 368 : 704,2006.
- 2) Clinical Pharmacology & Therapeutics 85(1) : 31,2009.

※ 次ページより改訂後の使用上の注意全文を記載致しておりますので、併せてご参照下さい。

＜改訂後の使用上の注意全文＞

禁忌(次の患者には投与しないこと)

- (1) 重篤な呼吸抑制のある患者〔呼吸抑制を増強する。〕
- (2) 気管支喘息発作中の患者〔気道分泌を妨げる。〕
- (3) 重篤な肝障害のある患者〔昏睡に陥ることがある。〕
- (4) 慢性肺疾患に続発する心不全の患者〔呼吸抑制や循環不全を増強する。〕
- (5) 痙れん状態(てんかん重積症、破傷風、ストリキニーネ中毒)にある患者〔脊髄の刺激効果があらわれる。〕
- (6) 急性アルコール中毒の患者〔呼吸抑制を増強する。〕
- (7) 本剤の成分およびアヘンアルカロイドに対し過敏症の患者
- (8) カテコールアミン(アドレナリン、イソプロテレノール、ドパミン等)を投与中の患者〔「相互作用」(1)の項参照〕

3. 相互作用

(1) 併用禁忌(併用しないこと)

薬剤名	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
カテコールアミン アドレナリン ボスミン イソプロテレノール プロタノール等 ドパミン等	不整脈、場合によっては心停止を起こすおそれがある。	併用によりエフェドリンの交感神経刺激作用が増強される。

(2) 併用注意(併用に注意すること)

薬剤名	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
キサンチン誘導体 テオフィリン ジプロフィリン等 ステロイド剤 プレドニゾロン ベタメタゾン等 利尿剤 フロセミド ヒドロクロチアジド等	血清カリウム値が低下するおそれがあるため、血清カリウム値をモニターするとともに、減量するなど注意すること。〔「副作用」(1)-6)の項参照〕	併用によりエフェドリンの血清カリウム低下作用が増強される。
モノアミン酸化酵素阻害剤 甲状腺製剤 レボチロキシン リオチロニン等	エフェドリンの作用が増強されるおそれがあるため、減量するなど慎重に投与すること。	併用によりエフェドリンの交感神経刺激作用が増強される。
中枢神経抑制剤 フェノチアジン系薬剤 バルビツール酸系薬剤等 吸入麻酔剤 モノアミン酸化酵素阻害剤 三環系抗うつ剤 β-遮断剤 アルコール	呼吸抑制、低血圧および顕著な鎮静または昏睡が起こることがある。	併用によりジヒドロコデインの中枢神経抑制作用が増強される。
抗コリン作用を有する薬剤	麻痺性イレウスに至る重篤な便秘または尿貯留が起こるおそれがある。	ジヒドロコデインにより抗コリン作用が増強される。
クマリン系抗凝血剤 ワルファリン	クマリン系抗凝血剤の作用を増強させることがある。	機序は不明である。

4. 副作用

本剤は副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(1) 重大な副作用

1) 依存性

連用により薬物依存を生じることがあるので、観察を十分に行い、慎重に投与すること。
また、連用中における投与量の急激な減少ないし投与の中止により、あくび、くしゃみ、流涙、発汗、悪心、嘔吐、下痢、腹痛、散瞳、頭痛、不眠、不安、せん妄、振戦、全身の筋肉・関節痛、呼吸促迫等の退薬症候があらわれることがあるので、投与を中止する場合には、1日用量を徐々に減量するなど、患者の状態を観察しながら行うこと。

2) 呼吸抑制

呼吸抑制があらわれることがあるので、息切れ、呼吸緩慢、不規則な呼吸、呼吸異常等があらわれた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。なお、ジヒドロコデインによる呼吸抑制には、麻薬拮抗剤(ナロキソン、レパロルファン等)が拮抗する。

3) 錯乱

錯乱があらわれるとの報告があるので、このような場合には、減量または投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- (1) 心機能障害のある患者〔循環不全を増強するおそれがある。〕
- (2) 呼吸機能障害のある患者〔呼吸抑制を増強するおそれがある。〕
- (3) 肝・腎機能障害のある患者〔代謝・排泄が遅延し、副作用があらわれるおそれがある。〕
- (4) 脳に器質的障害のある患者〔呼吸抑制や頭蓋内圧の上昇を起こすおそれがある。〕
- (5) ショック状態にある患者〔循環不全や呼吸抑制を増強するおそれがある。〕
- (6) 代謝性アシドーシスのある患者〔呼吸抑制を起こすおそれがある。〕
- (7) 甲状腺機能低下症(粘液水腫等)の患者〔呼吸抑制や昏睡を起こすおそれがある。〕
- (8) 甲状腺機能亢進症の患者〔甲状腺機能亢進症が悪化するおそれがある。〕
- (9) 副腎皮質機能低下症(アジソン病等)の患者〔呼吸抑制作用に対し、感受性が高くなっている。〕
- (10) 薬物依存の既往歴のある患者〔依存性を生じやすい。〕
- (11) 高齢者〔「高齢者への投与」の項参照〕
- (12) 新生児、乳児〔「小児等への投与」の項参照〕
- (13) 衰弱者〔呼吸抑制作用に対し、感受性が高くなっている。〕
- (14) 前立腺肥大症、尿道狭窄、尿路手術術後の患者〔排尿障害が悪化するおそれがある。〕
- (15) 器質的幽門狭窄、麻痺性イレウスまたは最近消化管手術を行った患者〔消化管運動を抑制する。〕
- (16) 痙れんの既往歴のある患者〔痙れんを誘発するおそれがある。〕
- (17) 胆のう障害および胆石のある患者〔胆道痙れんを起こすことがある。〕
- (18) 重篤な炎症性腸疾患のある患者〔連用した場合、巨大結腸症を起こすおそれがある。〕
- (19) 高血圧症の患者〔エフェドリンには血圧上昇作用がある。〕
- (20) 心疾患のある患者〔エフェドリンには心刺激作用がある。〕
- (21) 糖尿病の患者〔血糖が上昇するおそれがある。〕
- (22) 緑内障の患者〔眼圧が上昇するおそれがある。〕

2. 重要な基本的注意

- (1) 用法・用量どおり正しく使用しても効果が認められない場合は、本剤が適当でないと考えられるので、投与を中止すること。なお、小児に投与する場合には、使用法を正しく指導し、経過の観察を十分に行うこと。
- (2) 過度に使用を続けた場合、**不整脈**、場合によっては**心停止**を起こすおそれがあるため、使用が過度にならないように注意すること。
- (3) 連用により**薬物依存**を生じることがあるので、観察を十分に行い、慎重に投与すること。〔「副作用」(1)-1)の項参照〕
- (4) 眠気、めまいが起こることがあるので、本剤投与中の患者には**自動車の運転など危険を伴う機械の操作に従事させないよう**注意すること。

4) 無気肺, 気管支痙れん, 喉頭浮腫

無気肺, 気管支痙れん, 喉頭浮腫があらわれるとの報告がある。

5) 麻痺性イレウス, 中毒性巨大結腸

炎症性腸疾患の患者に投与した場合, 麻痺性イレウス, 中毒性巨大結腸があらわれるとの報告がある。

6) 重篤な血清カリウム値の低下

β 2-刺激剤により重篤な血清カリウム値の低下が報告されている。また, β 2-刺激剤による血清カリウム値の低下作用は, キサンチン誘導体, ステロイド剤および利尿剤の併用により増強することがあるので, 重症喘息患者では特に注意すること。

さらに, 低酸素血症は, 血清カリウム値の低下が心リズムに及ぼす作用を増強することがある。このような場合には, 血清カリウム値をモニターすることが望ましい。

(2) 類薬による重大な副作用

せん妄

ジヒドロコデインの類似化合物(モルヒネ)において, せん妄があらわれるとの報告があるので, このような場合には, 減量または投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

(3) その他の副作用

分類	頻度不明
循環器	不整脈, 心悸亢進, 血圧変動, 顔面潮紅
精神神経系	眠気, めまい, 視調節障害, 頭痛・頭重, 振戦, 不眠, 神経過敏, 脱力感, 発汗
消化器	悪心, 嘔吐, 食欲不振, 便秘
過敏症 (注)	発疹, そう痒感
泌尿器	排尿困難
長期連用 (注)	不安, 幻覚, 妄想を伴う精神症状
その他	口渇

注: このような症状があらわれた場合には, 投与を中止すること。

5. 高齢者への投与

低用量から投与を開始するなど患者の状態を観察しながら慎重に投与すること。〔一般に高齢者では生理機能が低下しており, 特に呼吸抑制の感受性が高い。〕

6. 妊婦・産婦・授乳婦等への投与

(1) 妊婦または妊娠している可能性のある婦人には, 治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合のみ投与すること。〔ジヒドロコデインの類似化合物(コデイン)の動物実験(マウス)で催奇形作用(化骨遅延)が報告されている。〕

(2) 分娩前に投与した場合, 出産後新生児に退薬症候(多動, 神経過敏, 不眠, 振戦等)があらわれることがある。

(3) 分娩時の投与により, 新生児に呼吸抑制があらわれることがある。

(4) 授乳中の婦人には, 本剤投与中は授乳を避けさせること。
〔ジヒドロコデインの類似化合物(コデイン)で, 母乳への移行により, 乳児でモルヒネ中毒が生じたとの報告がある。〕

7. 小児等への投与

新生児, 乳児には, 低用量から投与を開始するなど患者の状態を観察しながら慎重に投与すること。〔呼吸抑制の感受性が高い。〕

8. 過量投与

症状 呼吸抑制, 意識不明, 痙れん, 錯乱, 血圧低下, 重篤な脱力感, 重篤なめまい, 嗜眠, 心拍数の減少, 神経過敏, 不安, 縮瞳, 皮膚冷感等を起こすことがある。

処置 過量投与時には以下の治療を行うことが望ましい。

(1) 投与を中止し, 気道確保, 補助呼吸および呼吸調節により適切な呼吸管理を行う。

(2) 麻薬拮抗剤投与を行い, 患者に退薬症候または麻薬拮抗剤の副作用が発現しないよう慎重に投与する。なお, 麻薬拮抗剤の作用持続時間はジヒドロコデインのそれより短いので, 患者のモニタリングを行うかまたは患者の反応に応じて, 初回投与後は注入速度を調節しながら持続静注する。

(3) 必要に応じて, 補液, 昇圧剤等の投与または他の補助療法を行う。

